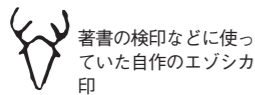
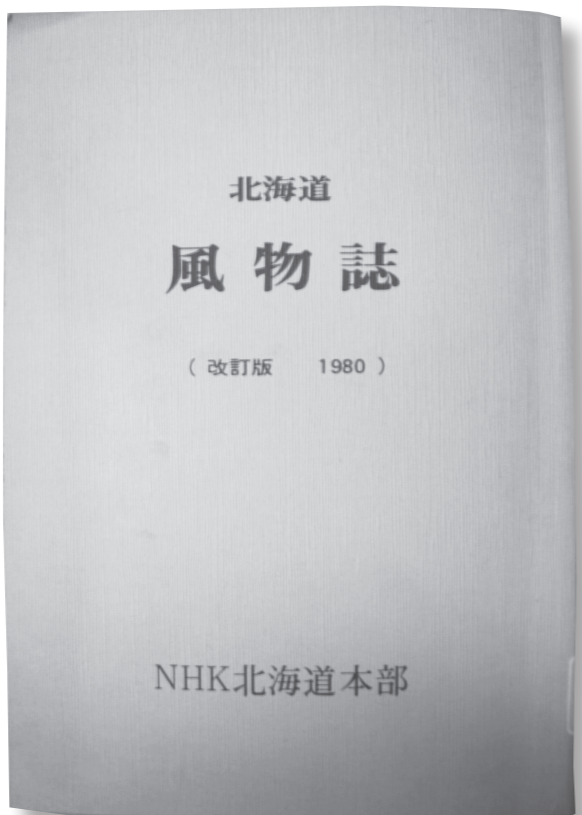


更科源蔵(さらしなげんぞう)
●1904(明治37)年、弟子屈町熊牛原野(南弟子屈)に生まれ、1985(昭和60)年に81歳で逝去。東京麻布獣医学校を中退した後、尾崎喜八、高村光太郎に師事し、詩作を中心に郷土史、アイヌ文化研究など主に文学活動を続けた。
▶弟子屈町で所蔵しているさまざまな資料を紹介する。



著書の検印などに使っていた自作のエゾシカ印



『放送番組資料 北海道風物誌(改訂版1980)』

NHK北海道では1966(昭和41)年に、内部資料として『北海道風物誌』を発行していましたが、社会の様相の移り変わりがあつて1980(昭和55)年に「改訂版 北海道風物誌」を発行します。この改訂版は、前回の『北海道地名誌』と同じように、資料収集と原稿執筆は更科に負うところがありました。

この冊子のはしがきでNHK北海道は「北海道には、北海道という気候風土にねざした独特の風物があります。それは月毎(ごと)に変わわり、きわめて多彩です。…使用にあたってはこれを手がかりとして、詳しい解説が必要なきは、専門書の併用や新たな取材によるなどして活用。北海道に関する放送が、より作り易く、より向上すること、その一助になることを希(ねが)って…」と書いています。

全ての記述が更科ではないにしても、これまでに収集した資料と知識が必要だったのでしよう。資料はNHK内部の番組制作に利用する資料で非売品です。

内容は、北海道の特徴的な気候風土や風物を1月から12月の章に分け「気象・自然」「生活・社会」「産業」「動物・植物」を節にして、630項目に原稿にまとめています。

その中の一つ、4月の「生活・社会」の節「春の遊び」の項目には、「雪と寒さに閉じ込められがちの冬の遊びは少ないが、雪から開放された春には遊びが集中されたといつてもよく、昔から行われ今も時々行われているものに次のようなものがある。

凧揚げ、パッチ、縄とび、かくれんぼ、陣とり、釘倒し(ネッキ)、高馬竹馬、助け、キャッチボール、野球、馬跳び、コマ廻し、竹とんぼ、ヨーヨー、花輪づくり、紙鉄砲、ビー玉、相撲花遊び、輪回し、チャンバラ。」

と、紹介しています。この冊子が発行されたころでも、無くなりつつあったものもありますが、この時代を生きてきた者には確かに遊んだ記憶があります。30数年経った今、果たして子どもたちの間に残っている遊びには何があるのでしょうか。

冊子が発行された目的とは違いますが、更科が書き留めてくれたことから、その時代を検証することができる貴重な資料となっているのです。

※パッチ：めんこ

誰もが自慢し、誰もが誇れる町目指し

観光庁「観光地域づくりプラットフォームモデル事業」



ワークショップの様子

てしかがえこまち推進協議会(会長・徳永町長)は3月8日、役場会議室で「観光地域づくりPFモデル事業」第3回ワークショップを開催しました。同協議会とその取り組みの中から生まれた「ツーリズムてしかが」の、それぞれの目標設定や事業計画について議論し、連携策を探りました。

同協議会は、観光庁が進める「観光地域づくりプラットフォームモデル事業」に指定され、今年1月から、専門家などで組織する検討会とともにワークショップに取り組んできました。

「観光地域づくりプラットフォーム」とは、地域の魅力ある着地型旅行商品を取り扱う事業者で、観光客を受け入れる地域と市場や旅行者を結び付ける、ワンストップ窓口としての役割を担うものです。

最終回となった今回は、協議会メンバーとアドバイザーの山田桂一郎さん、国の検討会清水慎一(座長)から清水座長(立教大学観光学部教授、佐藤誠委員)北海道大学観光高等研究センター教授などが出席し、協議会とツーリズムてしかがの30年後、5年後の目標や、今後の事業計画について議論しました。

清水座長は今回の事業を終えて「弟子屈町の観光地域づくりは、全国的にも非常に先進的な取り組みを続けている。今後は、地域全体の結束強化と広域での連携を進めてほしい」と話しました。

同協議会では、今後こうした取り組みを踏まえて、目標達成のための事業を実施していくこととしています。

リスクを知ることが大切



講師の早川氏

てしかがえこまち推進協議会エコツーリズム推進部会(池田篤英部会長)は2月26日、摩周観光文化センターで「野外活動スキルアップ講習会」を開催しました。

講習会は「野外活動を安心して楽しむために」をテーマに開講。町内外のカヌーガイドや登山ガイド、エコツアーガイドなど、野外活動に従事する事業者約30人が聴講しました。

講師は昨年に引き続き、多くの野外活動などでのトラブルの弁護活動に携わっている早川修弁護士(早川総合法律事務所・弁護士)と、こうした事故の際の保険のスペシャリスト、松永哲也氏(三井住友海上火災保険(株)のお二人が務めました。早川氏は「最近のアウトドア事業における事故事例と対策」というテーマで講演。「あらゆる事業活動において土台にあるのは『安全』。この『安全』に不安を感じている人こそ、事故を起こしやすい」「不可避的に生じるリスクを、正しく知ってコントロールするのがリスクマネジメント。大事なのは『リスク』を知ること」と強調しました。

参加者からは「昨年も受講したが、一度受講すればよいものではなく、こうした機会は何度でもあるとありがたい」と、継続した開催を求める声も上がっていました。

てしかが野外活動スキルアップ講習会

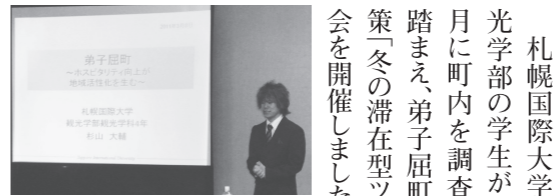
てしかがえこまち推進協議会エコツーリズム推進部会(池田篤英部会長)は2月26日、摩周観光文化センターで「野外活動スキルアップ講習会」を開催しました。

講習会は「野外活動を安心して楽しむために」をテーマに開講。町内外のカヌーガイドや登山ガイド、エコツアーガイドなど、野外活動に従事する事業者約30人が聴講しました。

講師は昨年に引き続き、多くの野外活動などでのトラブルの弁護活動に携わっている早川修弁護士(早川総合法律事務所・弁護士)と、こうした事故の際の保険のスペシャリスト、松永哲也氏(三井住友海上火災保険(株)のお二人が務めました。早川氏は「最近のアウトドア事業における事故事例と対策」というテーマで講演。「あらゆる事業活動において土台にあるのは『安全』。この『安全』に不安を感じている人こそ、事故を起こしやすい」「不可避的に生じるリスクを、正しく知ってコントロールするのがリスクマネジメント。大事なのは『リスク』を知ること」と強調しました。

参加者からは「昨年も受講したが、一度受講すればよいものではなく、こうした機会は何度でもあるとありがたい」と、継続した開催を求める声も上がっていました。

冬の体験型ツアーを提案



発表を行う学生

札幌国際大学経済学科観光学部が3月8日、2月に町内を調査した結果を踏まえ、弟子屈町の観光振興策「冬の滞在型ツアー」の発表会を開催しました。

この発表会では「足湯めぐり」や、町内に多く存在する倒木を、利用した「マイ箸づくり」「ワックスポール制作体験」手軽な「手づくりのダイヤモンドダスト体験」などの着地型旅行商品などが提案され、関係者の間で、興味を引いていました。

中には、在学中に旅行会社を運営した経験がある学生もいて、自らの経験も踏まえて、「北海道のサービスは三流と言われている。これからは摩周湖などの景観頼りではなく、顧客満足度の向上や着地型旅行商品などのソフトで勝負しなければ」と、地元事業者には耳の痛い発表などもありました。

同大学では「今後も何らかの形で弟子屈町の取り組みに協力していきたい」と話し、今回の取り組みに手ごたえを感じていました。